

村長村政報告

(紙面の都合で、内容は省略してあります。)

第5次総合振興計画

10月12日に専門部会がスタートし、基本計画の策定を進めています。

本計画策定では、「スローライフ」を村づくりの目標に掲げています。農山村の環境の中でじっくり熟成される味わいのある生きがいを求めて、自然との共生を基本に据えたものです。



▲総合防災訓練の様子

計画の策定については、講座等を開催して計画策定の理念等のご理解を深めたいと考えており、さっそく、12月15日には、第1回スローライフ講座を開催しました。

総合防災訓練

11月23日、飯樋の村民グラウンドをメイン会場として、村総合防災訓練を実施しました。

約840人の参加のもと、訓練は滞りなく実施され「極めて良好」に訓練が終了できました。

なお、この防災訓練に先立ち、村内20行政区全てに自主防災組織が結成され、その自主防災組織から多くの参加者があつたことは、大変意義深くかつ重要なことであつたと思つています。

また、当日は、小型動力ポンプ付積載車4台を

消防団に配付整備し、訓練後には消防団の秋季検閲式が行われました。

さらに、今回の検閲式には、村役場職員消防隊が初めて参加しました。これは、消防団員が日中、村外へ勤務している団員が相当いるという実態を鑑み、団員が手薄な時間帯を補完するという趣旨で、11月1日に隊員13人で発足したものです。

税

村税収入の状況は、納期がまだのものもありますが、全体では、10月末現在で49・2%、昨年同期を1・1%上回っています。しかし、国民健康保険税は昨年を下回り、また全体として次第に収納割合の伸びが鈍く、今後の税収確保が心配される状況です。

例年どおり11月、12月を収納率向上特別対策として、村職員管理職による臨戸訪問を行い徴収に

努めます。

ごみ処理

ごみ焼却炉の構造基準改正により、12月1日から従来の焼却炉はほとんどが使えなくなり、これにより各家庭から出されるごみの量が著しく増えることが予想され、12月からごみ収集体制を強化しました。

農業

10月15日発表の水稲の作況指数では、県平均では103の「やや良」、浜通りでも102の「やや良」です。

11月21日現在の農協出荷取り扱い数量は95・1%となっています。

うるち米は、5万740俵が出荷され一等米比率は78・7%で、昨年より10ポイント近く下回りました。また、もち米は、1万3、000俵出荷されて39・5%が一等米となつていますが、こちらは

昨年来20ポイント以上上回っています。

次に、生産調整の転作ですが、ガイドラインを超過した面積60分の地域間調整を、現在JAそらまをを通じて全量調整を行っています。

野菜類の10月末までの販売実績は、生産量は昨年を下回りましたが、販売額は2億200万円で1、300万円の増額です。

花卉は10月末では収量、販売金額ともに過去最高となっています。総額で1億3、200万円、前年対比では1、300万円ほど増加し、ここ数年順調に伸びています。

また、葉たばこは、キロ当たり代金・収量とも少なく10円当り42万2千円、総販売金額4億2、050万円で、昨年より1、500万円程減少しています。

新山村振興事業

10月25日付けで国の認可を受けました。ほぼ予定どおり全事業種目が今後4年間で実施できるものと思います。



▲和牛の販売も回復傾向に

畜産

BSE、牛肉偽装事件等により、子牛価格・枝肉価格が低迷していましたが、和牛子牛価格は8月以降の平均価格が40万円以上で取り引きされており、特に11月のセリ平均価格は、約45万円近い取引となり、近年にない高値販売となっています。

また、肥育関係も7月以降少しづつ回復してきており、11月には例年以上の価格での取引となっていますので、BSEの影響は払しょくされつつあるものと考えています。

振興公社

肥育事業は、4月から6月まではBSEの影響により大幅な落ち込みでしたが、7月からは回復傾向で、10月、11月と今までにない販売高となっていますので、この相場が維持されれば4月からの落ち込みが一定程度解消されるものと考えています。

また、全国和牛能力共進会の肥育部門に振興公社所有牛が、福島県代表として3頭1組の内の1頭として出品し、見事優等賞に入賞しました。

受精卵移植事業については、移植件数128頭、採卵回数34回と昨年より下回っていますが、受胎

率は53・1%と高い受胎の状況になっています。ほんの森事業は、対前年比106%の売上上で、僅かですが増加しています。

活性化施設の運営状況は、先日第10期の定例株主総会が開かれ、決算状況が報告されました。

10月からは更なる経営改善のため、職員同士の勤務評価をはじめ、能率給制度を取り入れるなど職員一丸となって健全経営に努め、自らの意識改革に取り組んでいます。

愛の句碑事業

応募総数2、811句と昨年を若干上回りました。投句者数は、海外を始めほぼ日本全国から1、151人と多くの皆さんから「愛の俳句」が寄せられました。

保健福祉

9月29日「第12回つつこうウォーキング」を

開催しました。村公民館から「村民の森あいの沢」までの区間約5キロメートルを、約1000人の参加者がウォーキングで心地よい汗を流しました。

「第2回ふれ愛ピック」は、10月20日草小体育館で行い、今年は、昨年の2倍の91人が参加し、競技に大いにハッスルしていたようです。なお、本大会の運営にあたっては、日赤奉仕団をはじめ相模飯館分校生、個人ボランティアなどの積極的な支援を受け、開催できたことに對し、心から感謝を申し上げます。

次に、「70歳到達同級会」ですが、11月16日に村公民館で54人参加のもと開催しました。この事業は、今年度より村敬老会の招待者年齢を70歳以上から、75歳以上に改正したことに伴う新規の事業です。

参加者からは、「こんなに楽しい同級会に参加



▲飯館村70歳到達同級会

させていただきとても良い思い出になった。」という声も聞かれ、敬老会の代替事業として高い評価をいただきました。

次に、「飯館村高齢者保健福祉計画並びに飯館村介護保険事業計画」の見直しについて、現在「飯館村福祉づくり推進会」により真剣に検討しているところです。

なお、介護保険料の現時点での月額見込みには、現行の「2、342円」が「2、980円」前後になるのではと推計しています。主な要因は、現在国に特別養護老人ホー

ム30床に加えショートステイ10床の要望をしており、この計画が実現することを想定しサービスの量を見込んでいたためです。

次に、「シルバー人材センター」の立ち上げについてですが、このほど当シルバー人材センターの事業概要並びに会員募集についての説明会を開催しました。説明会には、高齢者38人にお集まりいただきました、ほとんどの方が何らかの仕事をしたいという希望を持っていたようです。村も、既存事業の中で高齢者が働けるものがないのかどうか、検討しています。

除雪

12月6日に関係委託業者と打合せを行い、その体制を確認しました。

相馬地区、広域営農団地農道整備事業

飯館工区、八木沢・木

戸木間が完成、12月4日に開通式を行いました。

飯館工区は、全長4、375m、全幅8m、車道幅6m、橋梁2橋を要し、総事業費14億9、800万円が投じられました。また、本工区の完成にあたり愛称募集をしたところ186点の応募の中から、「いいいて快適だ道」に決定しました。

教育

教育委員の佐藤峯夫さんの任期満了にともなう新委員について、10月6日付けで草野地区の荻津容子さんに辞令を交付しました。

飯樋小学校の建築についてですが、現在まで5回のワークショップを開催し、基本設計図が固まりました。

11月27日の飯樋小建設検討委員会と、12月2日の教育委員会で、この基本設計図が了承されました。今後実施設計について

ても、関係者との協議を重ねて進めていきます。

この事業は平成15年度事業として取り組んできましたが、景気対策もあり、県から平成14年度事業として実施できないかと打診がありました。実施時期繰り上げは事業推進上得策と判断し、11月19日に県に対し、要望書を提出しました。

社会教育

平成5年以来9年ぶり



▲若妻の翼パートⅡの団員ら

に、「若妻の翼パートⅡ」が9月21日から10日間の日程で実施され、団員15人をデンマーク・ドイツに派遣し、10月1日に元気に帰国しました。

団員らは家庭を離れ、多くの出会いの中から自分の生活を見直すきっかけづくり、また、快く送り出してくれた家族に対して、改めて家族への想いができたのではないかと思います。

「いいいて発未来への旅」は、9月29日に飯樋小が、草野及び白石小は、12月7日に実施しました。

40回目を迎えた「村民体育大会」は、10月13日に行なわれ、多くの村民がスポーツを楽しむとともに日頃の運動不足の解消と、地域の人々が顔を合わせての交流が深められました。

10月26日、27日の2日間開催した「総合文

化展」は、1075人の村民の作品を展示しました。今年度は数多くの方々にご来場いただくため、1日目は夜8時まで公開延長をしたり、ミニ個展、お化けカボチャの展示なども行いました。

期間中は2800人もの来場があり、盛会な文化展となりました。

11月17日のふくしま駅伝は、95・4キロ、16区間にそれぞれの力を出しきり、最後までタスキをつないだ選手の方々の走りは、多くの村民に感動を与えていただきました。

県からの要請を受けて、飯樋町の田植踊保存会の皆さんが11月17日、岩手県花巻市で開催された「北海道・東北ブロック県民俗芸能大会」に出場しました。一昨年、50年ぶりに復活した飯樋町の田植踊りを北海道・東北各地の方々に紹介したところでした。